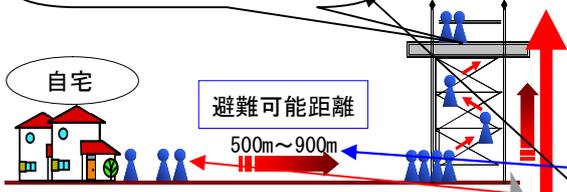


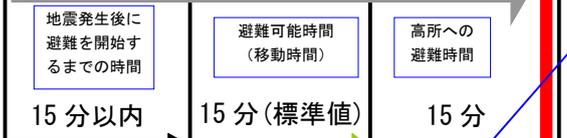
津波からの避難の基本的考え方

< 徒歩の場合 >

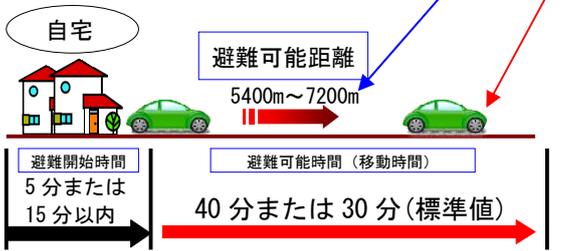
3.11の浸水深や津波シミュレーション結果に応じて、2階屋上~3階を検討等



津波到達予想時間 45分



< 自動車の場合 >



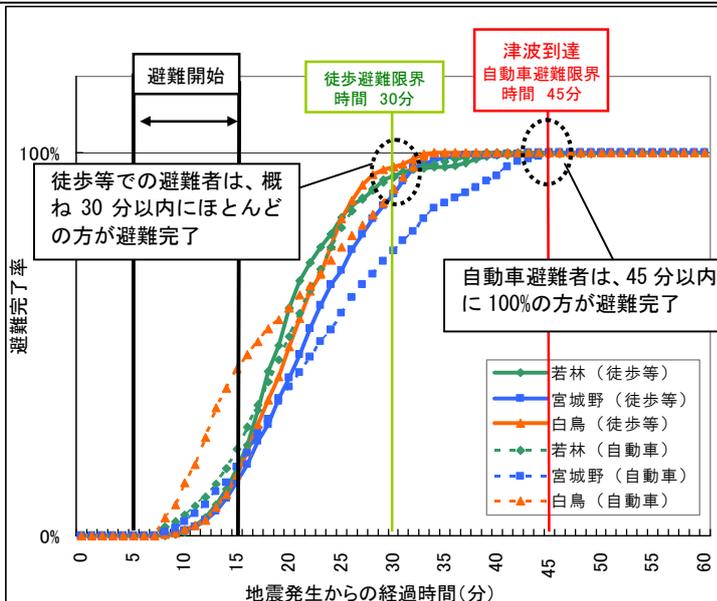
< 主なシミュレーション条件 >

- 避難者数は、最大となるよう設定。
(平成23年3月11日時点の住民基本台帳、防災集団移転後の人口予測、交通センサス等から予測)
- 集落からの移動手段は、徒歩が80%、自動車が20%と設定。
(自動車で避難せざるを得ない方を最小限と想定した場合)
- 避難時の通行条件に応じて、道路幅員・構造等必要な対策の実施が前提。
- 県道塩釜亘理線より東側の海岸公園利用者等は、別途検討することとし、シミュレーションには組み込まない。等

避難行動シミュレーションの検証結果

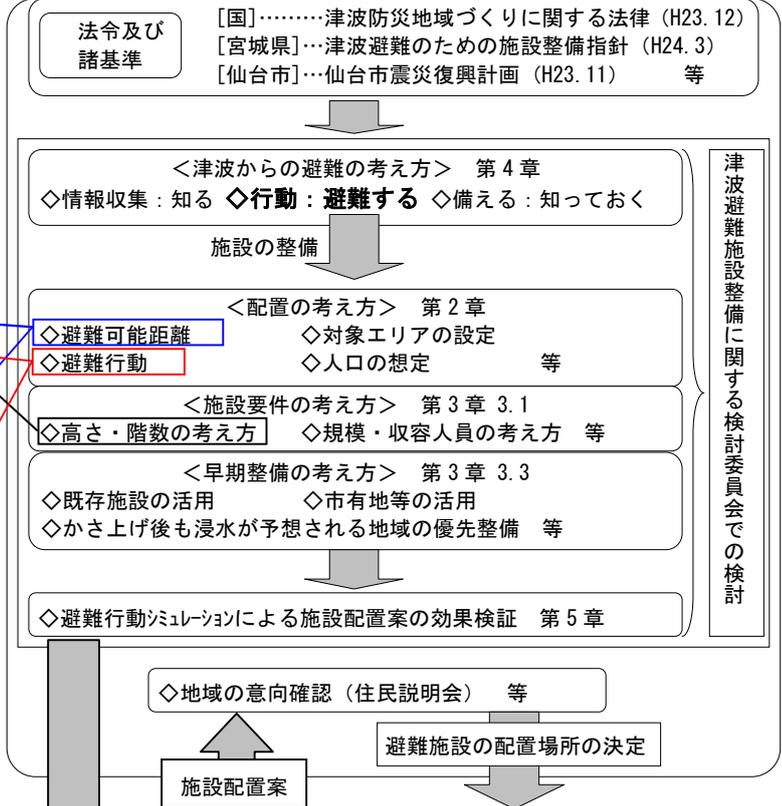
< 検証結果 >

- 自動車での避難者は、全ての方が地震発生から45分後までに避難が完了した。
- 徒歩等での避難者は、避難完了に時間がかかる地域が一部みられるものの、ほとんどの方が地震発生から30分後までに避難を完了した。
- 全員が避難完了するためには、地域による避難計画作成、避難訓練の実施、などソフト的な対策と、確実に避難するための通行条件実現のため、必要な道路幅員の確保や地震に強い道路構造、などハード的な対策の両方が重要。



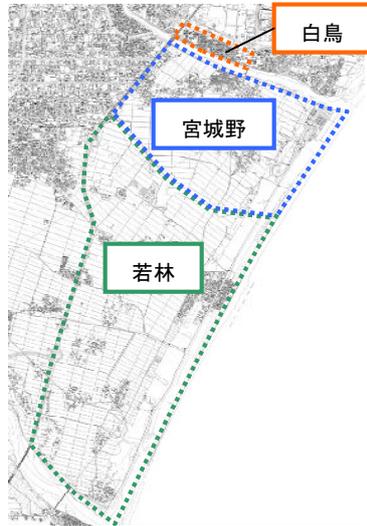
*徒歩は高所への避難(15分)を除いているため、徒歩避難限界を30分で設定

施設整備の考え方のフロー



(仮称) 津波避難施設の整備に関する基本的考え方
上記の考え方を整理し、地域の実状等に応じた適切な避難施設の整備の方向性について、整理・検討し、まとめたもの。

シミュレーション範囲



避難施設整備及び避難道路の基本的考え方

『津波避難施設の配置の考え方』

「(仮称)津波避難施設の整備に関する基本的な考え方(素案)」を踏まえ、避難行動シミュレーションの検証結果等をもとに、次の「早期整備の考え方」などにに基づき、**暫定的な案**として、津波避難施設の配置を検討することとします。

- 既存の市施設を避難施設として活用する
- 市有地等を活用し、優先的に避難施設を整備する
- 3.11の現況等を基準にし、県道塩釜亘理線かさ上げ後も浸水が予測される地域に、優先的に避難施設を整備する 等

『避難道路の考え方』

避難行動シミュレーションの検証結果から、設定した通行条件の下で、主要避難道路3路線による交通処理は可能であることが確認された。今後、主要避難道路の整備内容について、設定条件を実現するために、次のような項目で検討する。

- 路側に停車車両等があっても円滑な避難が出来る道路幅員を確保する
- 円滑な合流が可能な交差点構造とする
- 地震に強い道路構造とする 等

